2018野球規則改正に伴う全日本野球連盟の規則適用上の解釈（抜粋）

千代田区軟式野球連盟　審判部

反則投球の規則改正について

５．０７投手　（ａ）正規の投球姿勢

投球姿勢にはワインドアップポジションと、セットポジションとの二つの正規のものがあり、どちらでも随時用いることができる。

打者への投球に関連する動作を起したならば、中途で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

【注２】（１）（２）項でいう“**中途でとめたり、変更したり**”とはワインドアップポジションおよびセットポジションにおいて、投手が投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行なわずに、ことさらに段階をつけるモーションをしたり、手足をぶらぶらさせて投球することである。

① 反則投球に関する規則改正について

【 走者がいる場合の取り扱い 事項 】

事　　項	全軟連	BFJ	NPB
自由な足を一時停止して投球、塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
自由な足を上げ下げして投球	ボーク	ボーク	ボークとはしない
自由な足を上げ下げして塁に送球	ボーク	ボーク	ボーク
グラブを叩いて投球	指導	ボーク	ボークとはしない

【参考】 ＢＦＪ＝全日本アマチュア野球連盟　　ＮＰＢ＝日本プロ野球機構

※グラブを叩いての投球は、２０１８年度は徹底指導事項とし、２０１９年度からBFJと同様にする。

② 走者がいない場合の取り扱い

5.07(a)(１)および(２)に違反した投球動作は定義38に規定する反則投球ではなくなり、走者がいない場合にはペナルティを課さないことになる。ただし、自由な足を２度、３度と上下させた場合は、自然な投球動作ではないので、注意してやめさせる。

【参考】 下は、2018年は削除した規則です。

> 2017野球規則　定義　３８「イリーガルピッチ」
>
> 【注】投手が5.07(a)(1)および(2)に規定された投球動作に違反して投球した場合にも、反則投球となる。

申告故意四球について

(6) ５．０５ (b) （１）【原注】、９．１４、

定義７

打者が打撃中にボール４個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである)、打者には、ボール４個を得たときと同じように、一塁（が与えられる。）へ進ことが許される。

申告故意四球の確認事項

① 従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能。

② 打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。

③ 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。

④ 申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。

⑤ 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。

⑥ 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は１人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。

⑦ リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。

【参考】2017野球規則　定義 7

> 7　BASE　ON　BALLS「ベースオンボールス」（四球）〈2.07〉――打者が打撃中にボール４個を得て、一塁へ進むことが許される裁定である。(5.05b1)